

平成 28 年度のプロジェクト実施結果（経過報告）について

1. にぎわい商店街エコトーププロジェクト（家庭部門）

①ハツキタ商店街のイベントにおける啓発活動の実施

【イベント名】ハツキタ夏まつり 2016 ～ハツキタ夏マルシェ～

【実施日】平成 28 年 7 月 30 日（土）

【実施内容】

- ・既存イベントを活用し、来場者への環境保全行動の実践を促す啓発活動を実施するとともに、②で実施する「アトム通貨」を活用した省エネ行動プログラムの周知を行った（参考資料 1）。
- ・札幌市からは、騒音計（騒音レベルをデシベル（dB）値で測定できる機器）を使った大声コンテストや、会場内を環境にまつわるクイズを解きながら回る「エコ宝さがし」（参考資料 2）などのプログラムを実施した。

【連携先】

- ・発寒北商店街振興組合（土屋委員）
：ハツキタ夏まつり連携イベントとして、近郊への新聞折込チラシや小中学校への周知等をいただいたほか、イベントのテーマを「楽しく学べるエコ」としていただき、実施会場としてコミュニティスペース「にこびあ」の提供をいただいた。
- ・公益財団法人 北海道環境財団（柴田委員）
：北海道環境財団が実施している温暖化防止をテーマとした環境教育事業である「地球温暖化ふせぎ隊」と連携し、来場した子どもたちに向けて「電気な人は誰？～電気でわかる性格診断ゲーム～」を実施いただいた（参考資料 3）。また、会場内にヒグマやサケについて見て触れる展示キット「トランクキット」を展示いただいた。
- ・NPO 法人 ひまわりの種の会（新保委員）
：ひまわりの種の会で開発した環境教育カードゲーム「ガバチョ～我が国の選択」を、来場者に向けて実施いただいた（参考資料 4）。また、会場内に環境にまつわるクイズに回答すると、パネルが点灯する「顔ハメ」を設置いただいた。
- ・札幌市環境プラザ
：札幌市環境プラザで実施している「ECO まちがいさがし」（環境に配慮していないイラストを制限時間内に見つけ出すプログラム）を来場者に向けて実施した。

【当日の様子】



「地球温暖化ふせぎ隊」



「トランクキット」



「ガバチョ」



「顔ハメ」



「ECO まちがいさがし」



「大声コンテスト」

【実施結果】

- ・当日は天候にも恵まれ、イベント自体家族連れを中心にたくさんの来場者が集まり、今回提供したプログラムにも多くの方に実施いただいた。
- ・会場内を巡る「エコ宝探し」にはおよそ100名程度の参加があり、会場内の巡回や意識啓発を行うことができた。

②「アトム通貨」を活用した省エネ行動プログラムの実施

【イベント名】2016 ハッピーハロウィン in ハツキタ

【実施日】平成28年10月29日（土）

【実施内容】

- ・8月～9月の2か月間、節電に取り組んでいただき、「2016 ハッピーハロウィン in ハツキタ※」で電気の検針票（その年と前年同月の電力消費量が記載されている）を持ってくると、発寒北商店街で使用できる「アトム通貨」がもらえるプログラムを実施。

※発寒北商店街内の参加店舗に巡り、合言葉を言うとその店舗からお菓子がもらえるイベント。商店街の周知や子どもの見守り等の目的で開催。

- ・近隣小中学校（発寒小、発寒東小、西陵中、計約1400枚）へチラシを配布※し、周知を図った。

※「ハツキタ夏まつり2016 ～ハツキタ夏マルシェ～」と合わせた周知を夏休み前（参考資料1）に1回と、イベント前の9月中旬に1回の計2回配布。

【連携先】

- ・発寒北商店街振興組合（土屋委員）
：2016 ハッピーハロウィン in ハツキタ連携イベントとして、近郊への新聞折込チラシや店頭掲示ポスター、ホームページ等の周知をいただいたほか、アトム通貨交換会場としてコミュニティスペース「にこぴあ」前の提供をいただいた。

【当日の様子】



上：参加者の様子、右：検針票受付の様子

【実施結果】

- ・参加者（中学生以下の定員）800名に対し、検針票を持参した世帯は8世帯であった。
- ・うち、前年との比較が可能であった世帯4世帯の平均電力削減量は43.25kWh/月であり、二酸化炭素に換算※すると約30kg-CO₂/月であった。

※北海道電力の2015年度排出原単位（調整前）0.676kg-CO₂/kWhを使用。

2. 札幌市内事業所における省エネ活動推進プロジェクト（業務部門）

①「CO2削減ポテンシャル診断」を活用した市内事業者へのエネルギー削減アドバイス

【検討内容】

- ・環境省で実施している補助事業である「CO2削減ポテンシャル診断」を活用し、市内事業者へのエネルギー削減アドバイスを実施し、事業活動におけるCO2削減に結びつけることを検討していた。

【実施結果】

- ・参加委員とも調整の上、札幌市よりポテンシャル診断の受診の可能性がありそうな事業者に打診を行ったが、平成28年度においては受診までは至らなかった。
- ・一方、平成28年12月22日に閣議決定された平成29年度政府予算案においても、この「CO2削減ポテンシャル診断」事業が盛り込まれていることから（参考資料5）、次年度に向けて、本会議での議論も含めて検討を行いたい。

②市内事業者の従業員や顧客に向けた意識向上プログラムの実施

【検討内容】

- ・政府が実施している地球温暖化対策に向けた国民運動「COOL CHOICE」と連動して、市内事業者の従業員や顧客に向けた意識向上プログラムを実施することを検討していた。

【実施結果】

- ・第3回の会議において、対策の実施については、啓発的なものではなく、より効果的に二酸化炭素の削減に結びつく仕組みを構築すべきという意見が出た。
- ・一方、札幌市においては、「COOL CHOICE」とも連動した温暖化対策の啓発事業である「さっぽろスマートシティプロジェクト」を実施しているところであり、この事業の中では店舗等の賛同企業・団体でのポスター掲示も行っているところである（参考資料6）。
- ・そこで、本プロジェクト参加委員の一部の方とも相談させていただき、札幌市内における温室効果ガス排出量の分析を行い（資料4）、本市における業務部門のターゲットについて議論を行っているところである。
- ・今後の業務部門の実施プロジェクトについては、この分析結果も踏まえて議論・検討することとしたい。

3. 環境に優しい移動方法普及プロジェクト（運輸部門）

①既存イベントの活用による啓発活動（その1）

【イベント名】環境広場さっぽろ 2016

【実施日】平成 28 年 8 月 5 日（金）～7 日（日）

【実施内容】

- ・環境に優しい移動方法を普及させるため、道内最大規模の環境総合展示会である「環境広場さっぽろ 2016」に、本プロジェクト名で出展を行い、来場者へ向けた啓発を行った。

【連携先】

- ・NPO 法人 エコ・モビリティサッポロ（栗田委員）
：環境広場さっぽろ屋外体験企画として、ペロタクシー試乗会を実施（参考資料7）。また、屋内展示においてもペロタクシーの紹介パネルや三輪自転車等の展示を行っていただいた。
- ・一般社団法人 北海道バス協会（今委員）
：展示ブース内において、都市間高速バス等に関するパンフレットを展示いただいた。
- ・一般社団法人 北海道開発技術センター
：展示ブースにおいて、サッポロバイク[※]や折りたたみ自転車（ダホン）の展示、さっぽろサイクルラボの取組紹介パネルなどを展示いただいた。
※SAPPORO BIKE PROJECT という、主に札幌の自転車愛好家による活動によって製作された自転車。
- ・NPO 法人 ポロクル
：シェアサイクル「ポロクル」の実物や、パンフレット等の展示をいただいた。
- ・札幌市交通局・都市交通課（北海道開発技術センターとも連携）
：展示ブースにおいて、交通すごろくや公共交通ぬり絵、市電ループ化紹介映像などの展示を行った。

【当日の様子】



「ペロタクシー試乗会」



「ポロクル等の展示」



「市電ループ化映像等」



「公共交通塗り絵・すごろく」

【実施結果】

- ・「環境広場さっぽろ 2016」はイベント全体としては145企業・団体による出展があり、3日間で30,029人の来場者が集まり、多くの来場者に環境に関する意識啓発等を行うことができた。
- ・本プロジェクトブースにおいても、子どもたちを中心に多くの来場者が立ち寄っていた。公共交通や自転車等環境に優しい移動方法に関する普及を図ることができた。
- ・ブース内で実施したアンケートは約230枚回収することができた（結果は参考資料8）。

②既存イベントの活用による啓発活動（その2）

【イベント名】 だい・どん・でん／北海道バスフェスティバル

【実施日】 平成28年9月4日（日）※だい・どん・でんは9月3日（土）も開催

【実施内容】

- ・環境に優しい移動方法を普及させるため、大通～すすきのを歩行者天国にして、大道芸人のパフォーマンスや職業体験等を行う「だい・どん・でん」会場でハイブリッドバスやベロタクシーによる啓発を、北海道バスフェスティバルとも連携しながら実施。

【連携先】

- ・NPO法人 エコ・モビリティサッポロ（栗田委員）
：来場者に向けたベロタクシーの展示や、環境に優しい移動方法を宣言してもらい、ベロタクシーをラッピングするなどの啓発を実施。
- ・一般社団法人 北海道バス協会（今委員）
：北海道バスフェスティバル会場（赤れんがテラス）において、公共交通検索システムの「えきバスナビ」のパンフレット等を配架いただいたほか、「だい・どん・でん」会場においても北海道バスフェスティバルの周知を連携して行った。
- ・一般社団法人 北海道開発技術センター
：だい・どん・でんに展示したハイブリッドバスを活用し、来場者に対するバスの乗り方／マナー講座を開催いただいた。

【当日の様子】



上：展示の様子

右：ベロタクシーに添付した、環境に優しい移動方法の宣言





「バスの乗り方／マナー講座」の様子



「北海道バスフェスティバル（赤れんがテラスで開催）」の様子

【実施結果】

- ・「だい・どん・でん」及び「北海道バスフェスティバル」ともにオープンスペースでの開催であったため、多くの歩行者が立ち寄るイベントとなっていた。
- ・ハイブリッドバスやベロタクシーによる展示は、バスの大きさが来場者の目に付いたこともあり、来場者の関心が高く、ベロタクシーについて熱心に話を聞く方や、バスに今まで乗ったことがなく、乗り方を初めて学んだ方などがいた。